公民時報

発行所
福岡県田川郡
方城町公民館

（通第50号）

印刷所
冷牟田印刷合資会社

"無税の町"めざし
全町民の盛り上る協力を
十月十三日町制祝賀式

☆　昭和三十一年十月十三日、午前十時、秋空たかく鳴り渡る打上花火に、方城町、町制施行祝賀の式典は、厳かに、又、希望にあふれて始められた。　☆　☆　☆　町外一三五人、町内二四三人、計四七八名の来賓を招いて、初代倉石文夫町長の式辞が述べられた。　☆　☆

倉石町長式辞

本日秋晴れの佳き日にあたり、知事閣下を初め多数来賓の御臨席を辱うし、又、町内有志数百名の御参列を得て、かくも盛大に方城町誕生記念祝賀式典を取り行う事は、小職の最も光栄に存するところであります。御臨席下さいました来賓の方々に町民を代表しまして厚く御礼申上げます。

思うに本町は、明治二十年畑村と伊方村とが合併し伊方村となり同二十二年には伊方村と弁城村と合併し、現在に至るまでの方城村が出来上ったのであります。

爾来六十有七年、此の間歴代の先輩が、原野を開き貯水池を造り、道路を改修し橋梁を架け、更に学校を建てる等、血と汗を以て粒々辛苦の努力を積まれ、今日の方城町の実現に邁進されて来られました事績に対し、深甚なる感謝の意を表するものであります。

不肖昨年五月就任致しましてより、一年有半を経過致して居ります。

先輩各位の残された赫々たる業績の後継者として、又、町制実施の初代首長として、深く責任を感すると共に、日夜を別たず精一杯の努力を尽して居る次第であります。

就任と同時に着手致しました事は、約一千万円の赤字繰越金の解消と、伊方小学校の増築、病院の拡充などと併せ町財源の増加でありました。

財源増収に就いては煙草消費税の増収を考え、あらゆる機会を利用して全町民に呼び掛けました処、其の効果はたちまち現れ相当の増収を得られました事は、ひとえに町民皆様の御協力の賜物と、深く御礼申し上げます。

次に、町将来の発展策としての造林事業に着手致しました。即ち、福智山麓に連なる北部山岳一帯、約五五〇町歩が原野の侭数百年放置されて来た土地を、県や国に陳情運動を起し、幸い県行造林・水源涵養林の指定地となり、更に官行造林地指定を獲得し、全域に亘る植林の計画を企図し、既に昭和三十年度に於て県行造林十町歩余、水源涵養林三十二町歩、計四十二町歩の植樹を完了し、引続き本年度水源林約六十町歩と併せて官行造林四百町歩の契約を結び、本格的に植林実施の運びとなりました。之全く県並に国の御理解ある御支援に依るものでありますが、今後の実施に当っては一つにかかって、地元民の熱意ある協力に期待する所であります。

幸い本計画が順調に進捗し、所期の成果を見ることとなれば、優に数十億の財産資源となり、県下唯一の無税の町となるは必定であります。又近くには大水害の防止に役立つは勿論、早魃の憂いをも一掃するに至るものと考えます。又水源の確保に依る水量増加は、現存する開発可能の丘陵・原野や畑等約四百町歩を、ことごとく水田と変えることが出来、誠に洋々たる前途を期待することが出来るのであります。この植林事業こそ、小職在任中の最大の事業と思考致しておるのであります。

此の事業が完成された暁には、方城町民に対して直接的に又間接的に量り知れない恩恵をもたらすことが出来るものと強く確信致して居ります。

この外高冷地の利用開発や町内巡回バスの乗り入れ、及び町の中央を南北に横断し、田川市・福岡市に至る筑豊電鉄の誘致などを夢みつつ、更に又教育・文化の振興等々町将来の計画について大小様々の事業を計画中であります。

期待される町作りの大事業を一歩・一歩堅実に踏みしめ、今日より明日へ、明日より明後日へと、より豊かに、より明るい、より住みよい方城町の建設に精進を念願致しております。

地方自治とは、上からの命令を待って行動するものばかりでなく、下から盛り上る力と、中心の軸である首長との結集でなければなりません。幸いに当町が円満なる町政の伸展を見ているのも、偏に町民の力強い伝統的協力精神の賜物に外ならないのであります。

全町民のこの信頼を力に、方城町明日の発展に全力を挙げ、各位の御期待に副う覚悟であります。

来賓諸賢を初め、町内各位の御援助と御指導とを御願い申上げまして、希望の門出の式辞に代えさせて頂きます。公私共御多端な折柄、わざ〳〵御臨席下さいました来賓の方々に対し重ねて厚く御礼を申上げる次第であります。

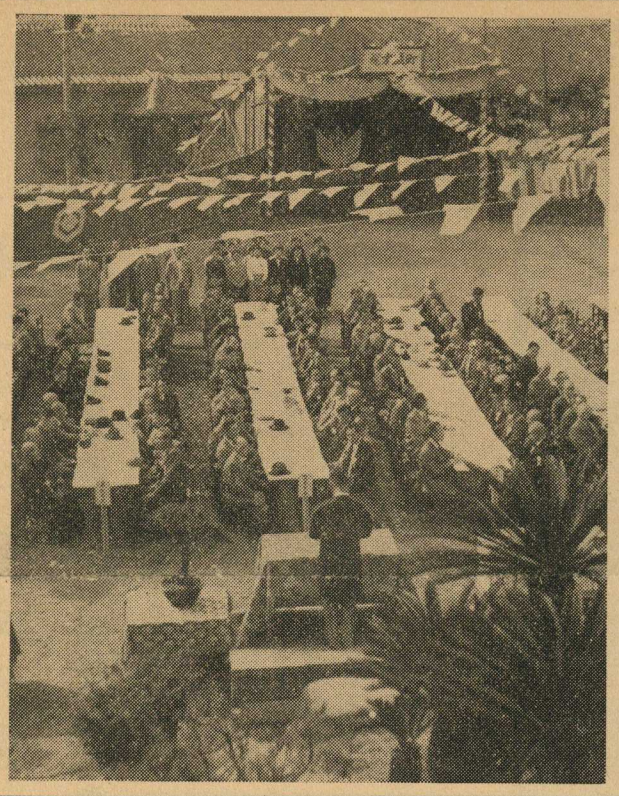
上天気に恵まれて

昨日は雨で、前日は朝の内小雨で曇り勝ちの天気。中央気象台発表の十三日は〃ところによって小雨が降る〃との事で、心配の内に十三日を迎えた。ところが今までの心配は杞憂に過ぎず、からりと晴れ渡った好天気。

打上花火の音も晴々しい。祝賀式典会場に早朝より町内外来賓各位が詰めかけ、会場に張りめぐらされた万国旗が青空に映えて眼にしみるようだ。開式を待つ人々の間に「よか天気でよかった。のび行くげん良か天気になったとばい」「倉石町長の町政手腕に曇りも顔負けして逃げたとばい」と気分がみなぎった。

祝賀式は、町制施行祝賀の式典に、厳かに、又、希望にあふれて始められた。のび行く方城町の勢いに天気も協力してこげん良か天気になったとばい」「倉石町長の町政手腕に曇りも顔負けして逃げたとばい」と気分がみなぎった。

誰の心にも、めでたい〳〵と祝賀の声が、そこ・こいです。



町制を祝して

空晴れて澄み亘りたる秋の水
汲めども尽きぬ今日のよろこび

被表彰者代表　香月春太郎

頭音方城

詞　治茂生瓜

町制祝賀

サァエ　香春三山に朝日が昇りゃ
かけた発破の心意気
ヨイショ　唄およ、方城音頭
みのり豊かな　ホンニ　豊かなネ　平和郷
方城　ホイホイ　ヨイトコホイ

サァエ　歴史は古き福智の裾野
夢も羽ばたく、あかね雲
ヨイショ輪になれ、方城音頭
文化花咲く　ホンニ　花咲くネ　鶴ケ丘
方城ホイホイ　ヨイトコホイ

サァエ　ヤマ砿山の煙が紅葉に映えて
娘ごころをなぜ焦がす
ヨイショ　踊ろよ　方城音頭
燃えて泣かせる　ホンニ　泣かせるネ　黒ダイヤ
方城ホイホイ　ヨイトコホイ

サァエ　花の宴か　ウタゲ　ネオンの虹か
月もほんのり夢ごろ
ヨイショ　楽しい方城音頭
せめて送るか　ホンニ　送るかネ　伊方橋
方城ホイホイ　ヨイトコホイ

サァエ　松の帯しめ　桜の神に
藤の笑くぼが招く町
ヨイショ　みんなで方城音頭
伸びて栄えて　ホンニ　栄えてネ　人の波
方城ホイホイ　ヨイトコホイ

作者からの手紙

稲穂もたわゝに色づいた錦秋十月、全町挙げての慶び『町制祝賀祭』誠にお目出度うございます。

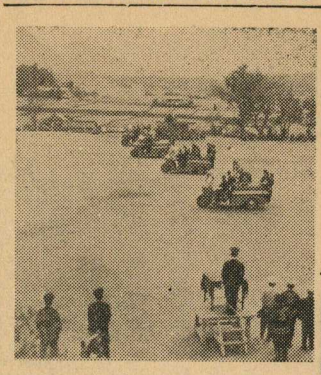
この町制に御苦労なされた、町長さんの喜びは一しおであろうと存じます。

方城に生れ方城に育った私としましても、祝賀祭を前にして、新たな感激に泣きたい位です。

祝賀行事に参加出来ようとも、貧しくも町の喜びを我が家の喜びとしてお祝いさせて頂きます。益々町政に御努力下さいますよう、方城町のたゆみない発展と、町長さんの御健康をお祈り致します。

昭和三十一年十月十日
伊方　瓜生　茂治

初代方城町長倉石文夫様

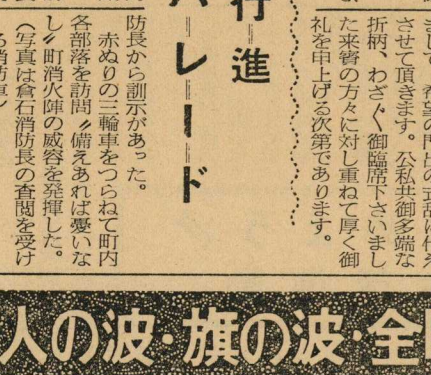


防長から副示があった。赤ぬりの三輪車をつらねて町内各部落を訪問〃備えあれば憂いなし〃町消火陣の威容を発揮した。（写真は倉石消防長の査閲を受ける消防車）

堂々の行進
消防パレード

町制祝賀祭二日目の十四日、時ならぬ消防車のサイレンが祝賀気分の町民を一時、緊張させた。

この日、消防団員は、全員午前十時から伊方小学校々庭で、服装点検から分列行進を行い、倉石消防長から副示があった。赤ぬりの三輪車をつらねて町内各部落を訪問〃備えあれば憂いなし〃町消火陣の威容を発揮した。（写真は倉石消防長の査閲を受ける消防車）



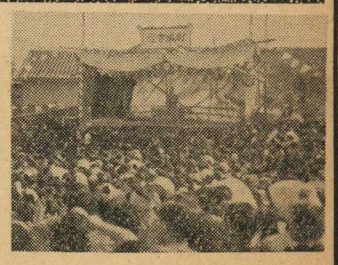
人の波・旗の波・全町あげての祝賀祭

前夜祭

方城町婦人会・方城砿業所主婦会の協力によって行われた婦人芸能大会は、予想以上の盛大さで、各支部それぞれの趣向をこらし、舞踊・寸劇など二十二種目、他に飛び入りが押しかけ、進行係はうれしい悲鳴をあげた。

倉石町長の音頭で「方城町万才」「方城婦人万才」の声が、星またゝく夜空にとどろき、婦人の力の偉大さを人々の胸に、今さらのように思わせた。

最後に、青年学級演劇部の「次郎かゝし」の熱演に、笑い声が上り、午後八時二十分、祝賀祭前夜祭の幕をとじた。（写真右は、喜びの挨拶をする倉石町長）



△　方城始まって以来のにぎわいであった。澄みわたった秋空のもと、十二日の婦人芸能大会を皮切りに、十三・十四と、全町こぞって「方城町」の誕生を祝い、明日を誓った。　△

☆　おごそかに祝賀式　☆

この日、晴れの表彰をうけた功労者を代表して、香月春太郎氏（七十二才、長浦分館）は、年にも似ぬ朗々たる声で「町制を祝して」と題する和歌（左上掲写真附）を詠み上げ、万場に深い共感を呼んだ。

☆　素人演藝大会　☆

各分館選りすぐりの舞踊・寸劇など二十二種目、飛び入り十数種目、非常な熱の入れかたで

☆　旗行列　☆

各保育園、小・中学校の〃よい子〃たちが、町内を行進し、町内に旗の波をうねらした。正午すぎ頃から、役場前式場を訪れ、万才!!万才!!の声は、くりかえし、くりかえし、秋空にこだました。

☆　作品展示会　☆

商品展・農機具展、そして生徒の作品展示会は、伊方校で行われ、書画・作文など約四百点が、会場せましと並べられ、中学校の社会科研究グループが、地味な郷土研究の結果をまとめて発表していた努力が注目を引いた。

この日は、午前九時から方城鉱業所の大運動会が開かれ、和かなうちに熱戦が展開され、結局第六区が優勝し、午後三時半終了した。また

青年団野球

が、中学校に於て開催、下田川各町の青年団チームが覇を競い、金田町と方城町との優勝戦となったが（3―2）で金田町チームの頭上に栄冠が輝いた。

一方、伊方小学校では、女子技芸塾の塾生はじめ、町内青年学級生の手による

変装行列

同じくこの日の昼、町内各分館から、知恵と力を出し合った変装行列がくり出し、乳牛や七福神など、二十九分館が役場を訪問した。（写真は広谷分館の白象行列）

多彩だった祝賀祭

ここに大方城町の誕生を祝す、全町あげての祝賀祭は、方城町民の盛り上る心意気を余すところなく発揮して、十四日無事その幕を閉じた。

方城始まって以来の大行事を、かくも盛大にやりとげた全町民の力と、協力心とは、明日の方城町建設の大事業へと、直ちに休む間もなく、大きく打ち出されようとしている。

大方城の前途に、栄光あれ!!
全町民協力一致、万才!!

NHKナゾのデパート
講堂をうずめた四千人

十四日午後三時、ナゾのデパートに集まった人々で、会場の伊方校講堂はぎっしり。声帯模写などで笑いさざめき、八組出場のうち、三組が無事三階までパスした。

祝賀祭素人写真大募集

1　応募資格　町内在住者
2　画　題　祝賀行事を主題とした作品に限る
3　締　切　十一月十五日
4　送　先　町経済課
5　発　表　十二月上旬

〝杉の子も育ったし……〟

涙にじませ喜ぶ長老

〈植えたのは三十年前の雪の降る日〉

迫分館〝造林感謝祭〟

十月二十一日、うす曇りの空をついて、奥ケ畑の谷間に「造林万才!!」の声がこだました。

総勢四十名余り。四人の長老を招いて、迫分館の「造林感謝祭」の一行である。

今を去る三十有余年前、奥ケ畑ジョウドベラのこの谷に、杉苗が植えられた。

今は腰も曲ったが、四人の長老、持丸源吉郎さん(六)白石秀吉さん(七)稲富半次郎さん(七)香月武三郎さん(六)もたちも、当時は四十才前後の、働き盛りだった。

いまは見事な杉山となって、ウッソウと茂る木肌を撫でながら、目に涙をにじませて

〝杉の子も育ったし、みんながこうして今日は招いてくれるし、嬉しいやら、ありがたいやらで……〟

と、洩らすのであった。

午前十時半、トラック、トヨペット、オートバイなどに分乗した一行は、助役、経済課長、公民館主事も参加して出発

迫分館長、弁城区常務、消防団長、迫出身の収入役の顔も見えるトラックは、エンジンを鳴らしながら、ぐんぐん上り、やがて到着。一行はくまなく杉山を見てまわる。長老も、若い者に負けぬ元気で、胸をつくような林をわけ登っていく。

約二町のこの杉山に、五千本。石千円の二千五百石とみて、二百五十万円の評価というところ。(迫分館の山は他に二ケ所ある)三十年前、この谷に植た日は、雪の降る寒い日だったとか。

今は見事に成長して、昼ながら林の中はうすぐらい。

谷の中央に陣取って、やがて感謝祭が始る。

区の常務、香月光義さんの挨拶

「倉石町長の造林の大事業にこたえて、われわれも大いに造林に努力したい。

今日は、この山を造りあげた先人の長老をお招きして、心から感謝の気持を現したい」

ついで助役の祝辞

「山をこれまでに仕立てる苦労は全く並大抵ではなかったでしょう。

年よりをお招きして、感謝しようとの今日の催しには、全く胸も暖まる思いが致します。

造林に全身全霊を傾ける町長さんが、今日参加出来ていたらどんなに喜ばれたこと……でしょう。

町の財産が出来上っていくのを共々に喜びながら、お互いで山を守ろう。

迫のこの催しが、他の分館のお手本となって、町の造林事業がどんどん進捗することを祈ってやみません」

この時、最長老の持丸源吉郎さんが急に立ち上り

「何ともありがたい。どなたもありがとう。感謝にたえない」

と、感激にたえかねた風で、挨拶をされた。

心づくしの折詰と酒が廻り、にぎやかな歌なども出て、誠に盛んな、そして親しみにあふれた空気があたりにたちこめた。

消防団長、稲富次郎さんの弁

「これは良いもくろみバイ。毎日は来れんが時にはレクリエーションに良い。青田を見て喜ぶのと、同じ気持バイ」

「間伐して、木を揃えねば。こんどは、ただ植えるばかりでなく造林技術をみがかにゃ」

「営林署の技師さんが来られた時などは、話をしてもらって、勉強せにゃ」

などと、熱の入った意見がつぎつぎと出された。

一行は、長老を囲んで記念写真を取ったあと、二時すぎ、意気ケンコウ帰途についた。

迫分館のこの催しは、四百町歩の官行造林を初めとして大々的な造林計画を推進中の方城町にとって、将来への明るい見通しを、動かせぬ事実を以て証明した事に外ならない。

ほかのすべての分館も、迫におくれじと立ち上り、着々「家づくり」「町づくり」の足並を揃えて下さい。

おいらの町

方城砥業所清見町　今仁　ただし

空は秋晴れ牛斬登りやたもと色づく谷間の清水
つづく硬山見渡す巣にひときわめだつ
おいらの炭坑よ
吹けよ西風福地の裾野
黄金波うつみのりの秋だ
汗と力に笑顔が満ちて
樹々は伸びゆく
おいらの町よ

作句四人

労も苦もなくなり杉に
爽やかな　一汗
林間に酒暖めて杉を見る　光義
すくすくと育つ杉中秋日　天留翁
かな
翁呼び酒くみかわす杉木立　小林

〝文化方城〟は〝産業方城〟から〝産業方城〟は〝造林〟から

町会傍聴席

10月24日、折から開会中の議会では、倉石町長の、造林計画についての説明を、各議員とも、熱心な面持で聞いていた。即ち

◎国と地元との配分率は、昭和31年度契約分は半々だが、32年度以降は国が六割を収めとることになっている。幸い方城町は、10月2日に、31年度分として契約を認めてもらうことに成功したので、五割は地元にくるわけ。

そのうち、一割を町に出してもらう約束で、官行造林四百町歩実現の暁には(見積価格20億円)、各部落の土地所有者に八億円、町には二億円の収入となり、各戸には、平均八十万円の財産が出来、町は無税でもやっていける。

◎第一回の伐採は大体十五年目。この時の収入は全部道路開設費に向けるとしても、方城だけでは使いきれぬ程であろう。

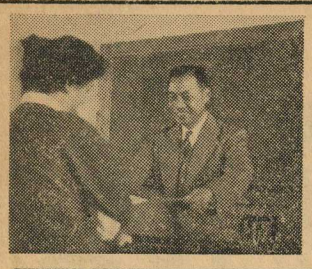
◎市四・五来以上の長浦の国営林道。広谷、上弁城の林道。野地東側の山の中腹まで、トラックがすれ違える巾の道路。

◎全九州の予算の、3分の1を方城町に獲得。又、造林の、規模と広さと実際では、日本一

◎しかし、植林だけが目的ではない。私の最後の目的は、地下資源(石炭)なきあとの、今の丘陵地帯を、この造林の効果によって、すべて水田化するにあります。(実質面積は、今の方城町の二倍に広がる)

◎大事業実現の為、各位の御協賛を願って止みません。

【写真説明】(上)前列左から稲富、白石、持丸、香月の四長老　(下)杉山の入口で



方城町赤ちゃんコンテスト

(厚生課)

10月2日・4日の両日、方城町赤ちゃんコンテストを農業会館で開催、昭和30年7月1日～昭和31年8月31日生れの赤ちゃん一九六名(男97名、女99名)が参加、一次予選で36名、さらに二次予選の結果、次の15名が入選しました。

男児	中原	立花美智雄	
	一区	野口 卓哉	
	四区	渡辺 信幸	
	弁城炭坑	田中 聡	
	◎四区	戎家 博美	
	宝珠	香月 修	
	前村	中川 博彰	
	四区	峰岡 佳裕	
女子	浄万寺	中山 芳子	
	四区	佐藤 早苗	
	三区	島田 弘美	
	二区	菊池みどり	
	◎四区	沢田 まみ	
	四区	加藤 幸江	
	宝珠	福田美奈子	

さらに選を重ねて、遂に今年度の栄冠は(男児)四区戎家博美(女児)同沢田まみの二人にきまりました。

又、努力賞としては、浄万寺の中山シモさんに。

中山さんは、孫の芳子ちゃんが生母が産後食道癌を患い、わずか二ケ月で母を失い、全く人工栄養児として育てられた。

しかし、シモさんの、日夜を別たぬ、涙ぐましい養育に、標準以上の優良児となることができた。

表彰式は十八日午後一時から農業会館で開かれ、倉石町長から、一人一人に対し表彰状がよまれ、記念の品が渡された【写真参照】

殊に、努力賞の大きな人形に喜ぶ、母なき孫を、しっかりと抱いた中山シモさんの姿は、感無量で目には光るものさえあった。

公有林野官行造林施行計画

番記	業務分類	数量(人員)	備考
一	周囲測量杭製作	四〇〇本	
二	同杭打込	作業員(七〇名)一四日間	周囲曲角及び地番区界
三	同測量	作業員(三〇名)七日間	
四	施業案編成	作業員(七〇名)七日間	森林区画、防火線、歩道の計画
五	造林植付準備		
六	苗木	ヒノキ二六、〇〇〇本 スギ六、〇〇〇本(二日)	ヒノキ四八町歩、スギ二町歩、計五〇町歩
七	苗木掘取運搬仮植	三輪車八台借上一〇日間	民苗購入の予定(県森田を通じ苗畑視察の上決定のこと)
八	苗木袋	七〇枚	
九	地拵	五〇町歩作業員一、〇〇〇名一七日間	苗木掘取荷造り運搬は花尾技官が現地で監督し造林地との間は電話連絡仮植は福田技官担当する。
一〇	植付講習会		新植事業開始一週間前実施
一一	植付	五〇町歩作業員(八七〇名)	一二月一日～三二年一月末日迄地拵は全刈として火入施行
			二月五日～三月五日迄

本年度官行造林事業計画案は左表の通りである。

【経済課】

着々進む 官行造林事業

かねて推進中であった、官行造林五十町歩の決定を見るに至った。

林事業も、愈々具体的に推進する段階に到達、契約事務に不眠不休の努力を続け、係は十月末までにこの事務を完了、取り敢ず本年度

倉石町長(公民館長兼任)の造林計画は、郷土を根本的に建て直そうとする大事業であるが、公民館の〝新生活運動〟の根本もこの造林事業の推進と、〝山を造る不屈な人々〟を次々に作り出すことにある。

造林グループをつくろう!!

十月二十三日、方城町青年団幹部会の席上「〝造林グループ〟を作ろう」との呼びかけが、公民館からなされた。

弁城区並びに伊方区ごとに、本気になって、造林に取つ組もうとする青年の結集体である。

愛する郷土の、繁栄と幸福を目ざして壮年、老年の人のみに任せず、否、むしろ、町の造林事業の先頭に立って、どんな困難にもへこたれずがんばり合って行こうというわけである。

戦い敗れて十年、今こそ、郷土と祖国への愛に燃えて、腹の底から青年が立ち上らねばならない秋である。

町の大造林計画に応えて、郷土を愛し、おのれの人生を愛する青年よ、結集せよ!

押し進めよう!! 新生活運動

上弁城青年支部は

つぎの晩、戸主・婦人会の人達と懇談会を持った。町会議員(兼公民館運営審議会委員)の永野久雄さんはじめ、熱心な分館員の方、婦人会支部長の永末スイノさんなどを迎えて、造林のこと、新生活運動のこと、青年団運営のことなどについて青年支部長渡正和さんの司会で十一時すぎまで、熱のこもった話し合いが持たれた。

運動をすゝめるには

- こんばん来て居る人が、来てない人を一人ずつ誘いだす
- 自分から始めて、人に及ぼす
- やさしいことから手をつける
- 一定の日に集りをもつ
- えらい人の話を、きくだけでなく、みんなで「話合う」
- 似合った者同志で仲間をつくり(5人～10人～15人)どんゝ活動をはじめる

どこも家計簿をつけよう

十月二十二日、田川自治会館で県社会教育課の後藤先生を迎えて家計簿のつけ方の説明講習会があり、方城から、各支部の代表が参加した。

婦人会長、稲富きみのさんは、帰りの車中で「来年は、婦人会の新生活運動の重点目標を〝家計簿〟におきたい。〝結婚式〟の改善は、徹底したと思いますので、これはこのまゝ押し進めていただき、町の造林事業に応じて、婦人会では、家計簿による、家づくり運動を始めます」と語った。

公民館でも農繁期明け、早速〝家計簿のつけ方〟の説明と話し合いを、各地区単位に開く予定です

福岡県公民館大会(第五回)

この新生活運動への起ち上りの中で、十月二十五日飯塚市中央公民館で開かれた大会には、倉石館長はじめ、教育長、町会副議長、運営審議会委員、分館長、婦人会主婦会役員、青年学級生代表など四十余名が参加した。

見六分館では

明くる日の二十六日常会をもち、二十数名が高津清次さん宅に集り、折柄、官行造林の杭打ちから馳けつけて帰った分館長の芳野重雄さんの国会で、造林や新生活運動の話合いが熱心に交され「土の偉人、二宮尊徳」などの幻灯四本が上映された。

(※分館や団体の支部やグループの方々は、すゝんで会合や、活動のことについて、公民館に連絡して下さい)

県の研究委嘱青年団に指定さる

青年団活動の飛躍的伸展を目指す県教育庁は、その重要性に鑑み、県下五地区に「研究委嘱青年団」を指定することになり、こんど当方城町の、弁城校区が指定青年団として推薦された。

造林(産業)活動を主体として、町政の向う方向と大いに協力し、郷土建設に立ち上ろうとする矢先でもあり、伊方校区青年も、打って一丸となり、弁城校区に於ける青年団活動(新生活運動、小集団話合い活動)の研究に、立派な成果を挙げる事が期待される。